

わかりやすい版



だれでも

いつでも

学べる社会へ



しょうがいのある・なしに関係なく  
共に学べる生涯学習について



Introduction

# 卒業してもたくさんある、 学びの場

▶ 私たちは、学校で長い間、学んできました。

だから、「勉強は学校でするもの」、

「卒業したら学ぶ機会はなくなる」と

考える人も多いかもしれません。

▶ でも、実は、卒業しても学び続けている人は

たくさんいます。

大人になってからも同じ趣味をもった人たちが

集まって活動をしたり、ボランティア活動をしたり、

アートやスポーツを

楽しんだりしている人がたくさんいます。

あなたの住む街にもダンスや料理、  
生け花や書道、パソコンや絵画など、  
たくさんの学びの場があるはずです。

こうして 学校以外の場でも学ぶこと、  
人生を通して学び続けることを、生涯学習といえます。

▶ 新しいことを学んだり、

自分の好きなことに取り組んだりするのは、

とても楽しいですね。

生涯学習は、こうした「楽しさ」を実現できる場です。

学校を卒業してからも

障害のある人もない人も共に学び続けることが

できる社会を国は目指しています。



# どんな活動ができるの？

地域で仲間と共に  
障害者学級の活動



イラストの後ろに立って、おもしろ写真を撮影。できあがった写真で写真集をつくりました。



料理のプログラム。ピザ生地からつくりました。みんな真剣です。



GAYA夏フェス。グループで宝つりや魚雷戦ゲームなどの屋台をつくって夏祭りをします。



1年間の活動のまとめの会。みんなで練習したダンスでもりあがります。

▶「青年学級」や「障害者学級」という言葉を聞いたことがありますか？  
公民館や特別支援学校などで開かれる活動で、学校を卒業した知的障害のある人などが参加できます。青年学級では、仲間と共に料理の仕方や家計簿の付け方など生活に必要なことを勉強できます。また、音楽やダンスなどを行うところもあります。

▶東京都渋谷区では、「GAYA」という青年学級が月1回、社会教育施設で開かれています。どんな活動をするかは月によって違いますが、料理や雑貨をつくったり、講師と音楽やダンスを楽しんだり様々な活動をしています。時間は、11時から15時まで。毎回60人くらいが参加して、グループに分かれて活動しています。GAYAでは、たくさんの学生や

社会人がボランティアとして参加し、一緒にプログラムを体験して盛り上げています。  
▶GAYAの参加メンバーの熊澤さんは、会社で働きながら、週末はGAYAに参加します。そのほかにも、障害のある人たちが中心となって活動(本人活動とよんでいます)する「ぐっとあっぷがや」にも参加しています。「ぐっとあっぷがや」では、

自分たちのやりたいことを話しあい、計画をたてて実行したり、自分たちの暮らしについて調べて、発表したりしています。一人で暮らす知的障害のある人に話を聞きにいったこともありました。  
▶青年学級は、全国に300カ所くらいあります。みなさんの地域で青年学級を見つけたら、ぜひ、参加してみてください。

# どんなことが学べるの？

大学で学ぶ

オープンカレッジ東京



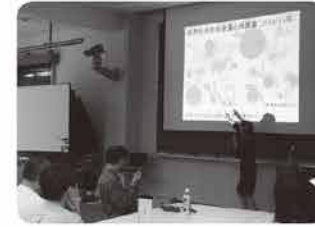
▶「大学」と聞くと、  
なんだか難しそうと思いませんか？  
でも、大学にはどんな人でも  
参加できる生涯学習があるのです。

▶東京都にある  
東京学芸大学では、  
「オープンカレッジ東京」という、  
知的障害のある人向けの  
生涯学習を行っています。

1年間で10回くらい、  
大学生のように  
大学に来て学習しています。

▶この日は、  
世界のお米について学びました。  
大学の先生が、  
ジャバニカ米、インディカ米、  
ジャポニカ米の色や、形、  
炊いたときの様子などの特徴を

学校を卒業したら、なに学ぶ？



▶まずは先生が世界で  
食べられているお米について  
説明してくれます



▶外国のお米を触って、  
日本のお米とどう違うか  
確かめました。



▶お米の種類ごとに  
形や大きさがどう違うのか  
付せんを書いて貼り付けました。



説明してくれます。  
それぞれの違いを  
図にまとめながら  
世界の食文化を  
調べることを通じて  
考える力を身につけます。  
この日の勉強は、  
3時間くらいでした。

▶オープンカレッジ東京では、  
毎回、違った学習をします。  
別の日には、理科の実験をしたりします。  
大学の先生たちが、  
たくさんのことを教えてくれるのが  
オープンカレッジ東京の特徴です。  
障害のある人たちの  
生涯学習の場をつくらせている大学は  
東京だけでなく全国各地にあります。



## 自分がやってみたい 生涯学習を 考えてみましょう

- ▶ ここまでは、生涯学習では  
どんなことができるか、見てきました。
- ▶ ここでは、これから自分が  
やってみたい生涯学習のことを、  
一緒に考えてみたいと思います。
- ▶ 自分がどんな生涯学習に  
チャレンジしてみたいか考えてみましょう。
- ▶ 周りには、友達や先生などと  
相談してみてもいいですね。

▶ はじめに、自分が得意なこと、好きなこと、  
「これをしているときがいちばん楽しい」と  
思えることを自由に書いてみましょう。



書いてみよう

Blank space for writing.

ワークシートに書いてみましょう

▶ 将来の夢や願い、  
「なりたい自分」について  
自由に書いてみましょう。



書いてみよう

▶ 学校を卒業したら やってみたい、  
チャレンジしてみたいことが あったら  
自由に書いてみましょう。



書いてみよう

これから どんなことを  
学んでみたいですか？

▶ 得意なこと、やってみたいことは、  
あなたが取り組みたい  
生涯学習へのヒントになります。  
どんなことを学びたいかわかったら、  
ぜひ、みなさんの住んでいる街の

生涯学習の場に参加してみてください。

▶ 重い障害があって  
外出が難しい人のために、  
生涯学習を届けてくれる活動もあります。

▶ 参加したいけど、  
どうしたらいいかわからないときは、  
役所の生涯学習を担当している  
ところに聞いてみましょう。

## くに

### ▶ 生涯学習を

どのように進めていけばいいか、  
考えたり、仕組みをつくったりします。

▶ 都道府県や市町村などが生涯学習を  
進められているか調べます。

### ▶ 障害について

多くの人に知ってもらいます。

▶ だれでもいっしょに学べる環境を  
つくることを目指しています。

## 都道府県や市町村

### ▶ 障害のある人が

生涯学習について

希望していることや

困っていることを相談でき、

それを解決できる環境をつくります。

▶ 生涯学習の情報を広く伝えます。

▶ 生涯学習をできる場が少ないなら、

施設や団体と協力しながら

学べる場所を増やしていきます。

▶ 生涯学習をどうすすめていくか

計画や目標を決めます。

## それぞれの 役割



## 特別支援学校など

▶ 生徒が「生涯学習をやりたい」と  
おえるようにします。

▶ 卒業してからも学びつづけられるよう、  
卒業したあとに行く会社や施設と協力します。

## 大学など

▶ 障害のある人の学びの場として  
期待されています。

▶ 障害のある学生のサポートをします。

## 地域の団体など

▶ 生涯学習をしたい人たちのための  
学びの場をつくります。

▶ 生涯学習の情報を役所や  
ほかの団体に伝えます。

## 会社など

▶ 障害のある人も仲間として  
受け入れていっしょに働きます。

▶ 働いている人が自分の力をのばして  
仕事にいかすことができるよう、  
生涯学習をサポートします。

## 生涯学習を支える 支援者のみなさまへ

▶ 学校を卒業した後も、  
身近で学べる機会はたくさんあります。  
しかし、障害のある人が学べる場が十分でない、  
あるいは配慮されている場が少ないのが現状です。  
そのため、地域に障害のある人が  
学ぶことができる機会をつくり、  
伝えていくことが重要です。  
同時に今あるさまざまな生涯学習の機会を障害の  
有無にかかわらず共に学ぶ場とするため、  
社会的な障壁を除去する配慮について、  
地域に理解を広げていくことが求められています。

▶ 生涯学習は、学びたいことを学ぶ、  
やりたいことをやるというものです。  
そのため、障害のある人自身にも  
「自分はこんな学びがしたい」と  
希望を伝えてもらうことも必要です。

そして、どんな支援や配慮をしてほしいかが  
具体的に伝わることで、学びを提供する側も  
障害者本人も安心して  
生涯学習に取り組めるようになります。

▶ 文部科学省では、障害のある人や支援団体などの  
ご意見を踏まえて、  
「障害者の生涯学習の推進方策について—誰もが、  
障害の有無にかかわらず共に学び、  
生きる共生社会を目指して—」という報告書を  
平成31年3月にとりまとめました。

▶ 今後、国や地方公共団体で障害のある人の  
生涯学習に関する取り組みを進めることが  
期待されています。

▶ 特別支援学校では、在学中から、生徒たちの  
生涯学習に興味を持ってもらえるような指導を  
行っていくことが期待されています。  
また、個別の教育支援計画の作成等を通じて、  
特別支援学校、地域の福祉施設や企業などとの  
連携を進め、卒業後も安心して  
学び続けられるようにしていくことが  
求められています。





# だれでもいつでも まな しゃかい 学べる社会へ

文部科学省 総合教育政策局  
男女共同参画共生社会学習・安全課  
障害者学習支援推進室

電話 03(5253)4111

ファクス 03(6734)3719

メール sst@mext.go.jp

2020年3月 発行

イラスト 鈴木衣津子

デザイン 細山田デザイン事務所

編集 一般社団法人スローコミュニケーション

この冊子は、学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議報告「障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して―」(平成31年3月)に基づき、知的障害のある人を主な対象とした「わかりやすい版」として作成されています。

あなたの街の  
しょうがいしゃがくしゅうし せんなんどうまどでち  
障害者学習支援担当窓口

仙台市教育局生涯学習部  
生涯学習課

〒980-0011

仙台市青葉区上杉  
1-5-12 上杉分庁舎10階

TEL:022-214-8886

FAX:022-268-4822